

スタッフの声

福祉に携わるそれぞれの思い

「仕事の内容」や「働く思い」など、後志報恩会で働く職員たちのそれぞれの今を紹介します。



先入観や

固定概念に左右されず、
私だからできる支援を
一人ひとりに。



勤務先／大江学園
2014年入社（京都府出身）

にしの
みほ
西埜 美帆



大江学園に入所されているほとんどの利用者さんがこの施設を終の棲家とされる中で、毎日を穏やかに笑顔で過ごすことができるよう支援するのが私たちの仕事です。対人援助職のなかでも、利用者さんと密に関わることができるのがこの職種。一人ひとりのことをよく知り、より個別的な支援をできることが対人援助を行う魅力です。特に大江学園は少人数の施設で、みんなとお話しができたり、一人ずつにかけられる支援の時間が多いため強みだと思います。

もちろん、上手くいかないことや大変なこともたくさん。利用者さんとの信頼関係は簡単には築けないものだし、人の死というものを身近に感じなくてはならない場面もあり「つらい仕事だな」と感じることもあります。ですが、担当の利用者さんから頼られた時、自分の名前を覚えて呼んでもらった時、出来ることが増えた時など、毎日が小さな感動にあふれています。

難しい支援の場面でも、職員同士で知恵を出し合い、フォローし合いながらチームで利用者さんを支援。普段の会話がより良い支援に繋がっていくこともしばしばです。私は今、20代半ば。利用者さんからすると子や孫くらいの年齢です。人生の先輩である、利用者さんから学ぶことはとても多く、日々、勉強させてもらっています。その中で、経験の浅い私には何ができるのか考えた時、自分の持っている感覚を大切にしながら、こんなに楽しい遊びがある、最近はこんな物が流行っているなど、新しい発見や新鮮な気持ちを味わっていただきたいと考えて支援をしています。先入観に左右されず、穏やかに過ごしていただきながらも刺激のある毎日を送っていただきたいと考えています。



勤務先／銀山学園
2015年入社（札幌市出身）

ほんぽ
みつうみ
本保 光海

「笑顔のために働きたい」

ここはその思いを叶えられる私にとっての理想の場所。

利用者さんの素直な笑顔や迎え入れてくれるような優しさが、私の原動力になっています。どんな障がいを持っている方でも、一生懸命に気持ちを伝えると必ず思いは届きます。

入社して間もない頃、物を壊してしまったり、衣類を破いてしまったりする利用者さんがいました。でも、職員みんなで一丸となって支援することで、そういう行為はいつのまにかなくなり、今では問題なく過ごせています。その積み重ねが、私も含めて成長に繋がっているのだと実感できました。利用者さんにはそれぞれ個性があります。それぞれの得意とする分野を活かして、楽しく生き生きと暮らしてもらうことが支援の大切な部分。一人ひとりに目を配りながら、仕事に励んでいます。

銀山学園のある仁木町は自然に恵まれ、アウトドアが好きな方にはとても気持ちのよいところです。利用者さんや職員の笑顔と美味しい空気の中、楽しく一緒に働きましょう。少しでも興味があればぜひ一度見学に来てくださいね。

勤務先／和光学園
2013年入社（小樽市出身）
平尾 健太郎

現場だけでなく、 地域を巻き込んだ福祉を実践していく人材を目指して。

僕は生まれ育った小樽で、人のために働ける仕事は何かを考えた結果、福祉の道にたどり着きました。

今働いている和光学園には、中度から最重度の知的障がいがある利用者さんがいます。日中は、みんなで牛乳パックを再利用して紙を作ったり、幼稚園に配布する折り紙を作ったりとさまざま。夕方には生活棟で利用者さんの暮らす部屋の掃除や洗濯などの生活支援を行なっています。

「福祉」と聞くと、メディアに取り上げられるようなネガティブなイメージもあると思いますが、実際はそんなことはありません。大変な部分も確かにありますが、楽しくやりがいのある場面もとても多い仕事。特に利用者さんやその家族から「ありがとう」と言われた時は、本当に嬉しく思います。

僕は体を動かすことが好きなので、スポーツ活動も楽しみのひとつ。利用者さんと一緒にしたティーボール全道大会で優勝した時は喜びもひとしおでした。職場は、福利厚生が充実していて休みもしっかりと取れ、プライベートも充実できる環境。人と関わることが好きならとても魅力的だと思います。



勤務先
グループホーム支援センター にじ
2015年入社（小樽市出身）

まきた 牧田 夏織

今感じていることを忘れずに、 その先を見据えながら利用者さんの暮らしを大切に支援。

この職場を選んだのは、保育士資格取得のために実習生として和光学園で受け入れて頂いたのがきっかけでした。仕事内容は「地域生活支援」を行なっており、利用者さんの人生セルフプランを基に、地域で暮らすための仕事・金銭管理・食事・健康管理などのお手伝いをさせていただいている。

地域生活支援は「予定と違った!」ということが日常茶飯事。「電車が止まってバスで帰るよ」「予備費があったから、そのお金で買い物してきたよ」「帰りが遅くなりそうだよ」など、そんな報告を利用者さんから聞くと、社会の一員として地域の中で暮らしていることを実感して嬉しくなります(笑)

私は、ここで仕事するまで障がい者支援をしたことがありませんでしたが、携わったことがなかった人にぜひ経験してほしい仕事だと思っています。利用者さんとの関わりは、学ぶことがとても多く、自分自身の成長にも繋がります。人との出会いを大切に一緒に頑張りましょう。

